

2016 年度社会学研究科

「プロジェクト研究」開講一覧

2014 年度から「プロジェクト研究」（8 単位）が新たに開講されています。この科目は大学院生と教員が特定課題の研究プロジェクトに取り組み、計画の立案、調査の実施、結果の分析、報告書の作成というプロセスを経験する中で、社会学の研究能力を養成する教育プロジェクトです。選択科目として博士前期課程在学中に必ずひとつのプロジェクトを履修する必要があります。2016 年度は、次の 5 つプロジェクトが開講される予定です。

「プロジェクト研究 A—グローバルな人の移動と交流」

グローバルな人の移動が進展する中で形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べる。また、一定期間の外国滞在後に帰国したケースも含めたネットワーク形成のあり方などを対象とする。2016 年度は、これまでの調査の成果をふまえて、海外の都市の日本とのかかわりや国内での外国人居住者支援活動などについて調査する予定である。

「プロジェクト研究 B—グローバル・メディア研究」

現代において新たにグローバルな展開を見せているメディアの状況について、主に東アジア諸国をフィールドにしなが、実証的に明らかにしていくことを目的とする。2016 年度はグローバルな現象の展開とメディア・ジャーナリズムの変容について歴史的な視野を踏まえながら検証する。

「プロジェクト研究 C—震災経験のライフストーリー」

東日本大震災で甚大な被害を受けた現地をフィールドワークし、被災した人びとや現地で活動をしている人たちと関係をつくりながら、その経験の語り＝ライフストーリーをききとっていく。それを、現地の人びとの支援につなげつつ、未来への経験的遺産としてアーカイヴ化する。ライフストーリー・インタビューという調査経験を通して、被災した人びと・そこに関わる人びとの生活世界から震災の現実を理解すると同時に、日本社会全体に深い影響を残している震災経験を私たちはどう受けとめ、いかに関わっていけるのか、各自の問題関心から考えていく。

「プロジェクト研究 D—文化研究」

カルチュラル・スタディーズや文化の社会学、文化人類学といったアプローチから、「マイノリティ」のおかれた現代的状況を明らかにすることを目的とする。おもに参与観察型のフィールドワークや映像の表象分析にもとづく日本と世界の比較研究をとおして、社会集団やその文化をとりまく普遍的課題を追究することを目指す。

「プロジェクト研究 E—地域コミュニティと環境研究」

日本国内の地域コミュニティを対象として、マクロな社会変動に対して地域社会がどのように対応しているのか、その社会的状況を質的な調査法を用いて明らかにしていく。プロジェクトでは主に、沖縄社会を対象を限定して、沖縄の観光開発が環境にどのような影響を与えてきているのかを調査する。地域コミュニティや家族に焦点を当て、地域社会学、環境社会学、家族社会学などの視点から、その社会過程を明らかにしていく。